

「認知症」って何？

知っているようで知られていない

砂川市立病院
認知症疾患医療センター長
うつみ くみこ
内海 久美子氏



自分が悪いのではない

—認知症における最近の傾向は。もの忘れという病気が一般の方にもよく知られるようになって、「少し忘れっぽくなった」ということで心配にな

って受診される方が増えていきます。受診者では、認知症の前段階の「軽度認知障害」(MCI)のレベルの人が、ここ5、6年の間で2割以上になっていきます。以前だと「どうして重くなるまで医療機関に受診していなかったのだろう」と驚くようなケースがありました。が、今はほとんどありません。受診のハードルが低くなって、それだけ早期発見につながっていると言えますね。砂川市立病院では、患者や家族を対象に受診の際の「満足度調査」を実施しています。おおよそ1000人を対象に「受診前と受診後の不安」について「老年群」と「若年群」(65歳未満)に分けてアンケート調査を行っています。「老年群」では、患者も家族も「受診前の不安」はおおよそ6割で、意外に少

なかつた。この不安を抱いていた方が診断名を告げられた時は、「不安がなくなった」が9割弱でした。つまり患者も家族も「病気であることがわかって納得し、安心して

【表1】
受診・早期発見・早期治療は、患者や家族の満足に繋がっているのか？

そこで初診となり、診断名を告げられた患者さん (MMSE 20点以上の軽度の方) と、すべての家族にアンケート調査を実施 (2017年4月～2019年12月)

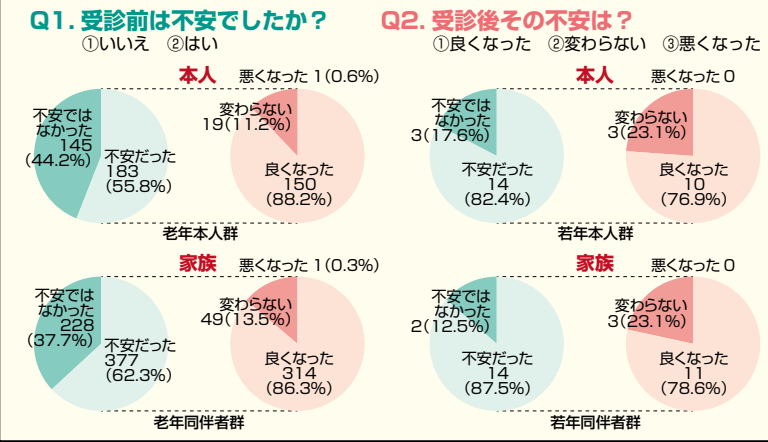
回答者概要		回答者数	診断時の患者の平均年齢
患者本人	老年	348	79.9 ± 6.0
	若年	18	58.4 ± 5.9
同伴者	老年	619	81.1 ± 6.0
	若年	17	58.1 ± 5.4

【表2】 診断名告知後の気持ち

	本人	同伴者
進行が心配だったが、病気や病状が理解でき不安がやわらいだ	88(5)	188(2)
すべきことがわかり、前向きに治療する気持ちになった	13(1)	12(1)
早くわかって良かった	9	18
希望も捨てていなかったでショックだったが前向きにいくしかない	5(1)	7(1)
心配だった	6	24
介護サービス利用や今後を家族で話し合おうと思う	2(1)	18
病気だと思っていなかった	3	1
今後の進行、介護、生活が心配だ	2	41(2)
結果を受け入れなければいけない、今後の覚悟ができた	2	15
本人が納得して良かった	0	6
その他	18	24

重複回答あり。() 内に若年群の数値を示した。

【表3】 結果





続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)